

＜物部川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果:○ 課題:◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>1 南国市の園芸主幹品目シシトウの再構築</p> <p>《南国市》</p> <p>全国一のシシトウ産地維持のため関係機関の協力の上、コスト削減や品質改善などに取り組み生産・流通・販売上の課題を解決する。</p> <p>【JA南国市、JA長岡、JA十市】</p>	<p>○3JA合同の生産者大会や現地検討会、消費地動向調査などに取り組み、3JA間の生産技術及び販売レベルの高位平準化に努めた。</p> <p>○重油価格が高止まりするなか、省エネ型温水温風暖房機やヒートポンプの省エネ効果を検証した結果、約30%の重油削減ができた。</p> <p>○天敵の導入を推進した結果、H23年度で97%と高い導入農家率となった。ただ新たな難防除害虫の発生への対策が求められる。</p> <p>◆重油等生産コストの上昇や高齢化の進行などもあり、H19園芸年度の農家数130戸、栽培面積18.3haから、H23園芸年度は114戸、16.2haと減少し後継者の育成が必要である。</p> <p>◆新たな省エネ機器や重油代替機器は導入コストがかかり普及しにくい現状がある。</p>	<p>◆関係機関での検討情報共有(営農改善会3回)</p> <p>◆省エネ加温技術研修及び導入に向けての事業説明会(各1回)</p> <p>◆土着天敵利用技術先進調査(1回)及び新技術の検討(土着天敵活用実証1カ所)</p>
<p>2 エメラルドメロンの販売力向上対策</p> <p>《香南市》</p> <p>香南市夜須町のJA土佐香美園芸部メロン部会夜須支部部会員が生産するエメラルドメロンは平成19年には「夜須のエメラルドメロン」として商標登録を行うなど、独自のブランド化に取り組んできた。平成21年度から23年度には、県産業振興推進総合支援事業を活用し、生産面において新技術の導入(日射比例かん水制御システム)、販売面では、それまでの県内や関西圏を中心とした販売から関東圏での販売拡大を目指して、新たな販売戦略の構築に努めてきた。</p> <p>過去3カ年間の取り組みをもとにさらなる生産拡大、関東圏での販売量拡大・知名度向上と合わせて全消費地でのブランド化に取り組む。</p> <p>【JA土佐香美】</p>	<p>○日射比例かん水制御システムの導入により、生産農家のかん水作業の省力化が図られるとともに、品質が向上し、可販果率が向上した。また、関東地区での百貨店等における試食宣伝やバイヤーの産地招聘など継続した販売促進活動が知名度を向上させはじめている。</p> <p>◆関東地区への出荷量拡大及び新規市場の拡大</p>	<p>○◆パートナー量販店(東急ストア)・市場関係者(東京青果)産地招へい(5.29)</p> <p>○◆MB代替薬剤(ヨーカヒューム)試験ほの設置(1カ所)。</p> <p>○◆大玉果軽減のため高温期草勢の目慣らし、温度・灌水管理の徹底指導(現地検討会5/31、参加5名)</p>
<p>3 ニラの産地力強化「日本一のニラ産地の維持・拡大へ向けた仕組みづくり」</p> <p>《香南市、香美市》</p> <p>JA土佐香美は日本一のニラ産地であるが、近年は、個々の農家の規模拡大が進む一方で、高齢化により部会員数は減少している。こうした状況の中で、農業所得の向上や産地の維持・拡大を図るため、産地でまとまりをもって、環境保全型農業技術や新技術の導入に取り組むとともに、担い手対策や既存農家の規模拡大支援など、産地力の向上に向けた取り組みを総合的に進める。</p> <p>また、食の安全・安心への取り組みとあわせて、「人と環境に優しいニラ産地」としての土佐香美ブランドを構築し、市場での有利販売に取り組む。</p> <p>【JA土佐香美】</p>	<p>○JA土佐香美園芸部ニラ部会は平成20園芸年度に253戸・84.5haであったが、平成23園芸年度には242戸と中山間地域を主に高齢化による離農により減少傾向にあるが、面積は95.1haと増加傾向にある。これはUターンによる新規就農や既存農家の規模拡大により減少をカバーしている。販売額も平成20園芸年度23.5億円から平成23園芸年度には28.6億円と年々、伸ばしており市場販売高では3年連続30億円を超える実績を残した。</p> <p>生産上の対策としては新技術や新品種の積極的な取り組みによる反収の増加、コスト削減を進め、経営の安定化を推し進めている。</p> <p>流通、販売上の対策としては先行して導入した小袋パーシャルシール包装に続き、大袋パーシャル包装を平成21園芸年度に導入、平成23園芸年度にはインクジェットプリンター(包装機番号、出荷日、時間の記号)を導入し、鮮度保持やトレサビリティに取り組んでいる。</p> <p>◆さらなる産地力強化</p>	<p>○◆夏ニラ産地物部町の育苗をニラ部会の大規模農家に委託幹旋。</p> <p>○◆防虫ネット+タイベックシート被覆によるアザミウマ防除の実証ほを設置(防虫ネット4/27、タイベック5/11)1カ所。</p> <p>○◆鮮度保持対策の目慣らし会実施(5/23、24、6/5、6/25～29)11回。</p> <p>○◆異物混入対策の品目別チェックリストによる点検を実施(5/23、24、6/5、6/25～29)。</p> <p>○大阪市場卸売会社、岡山丸果、名古屋青果との出荷、販売について情報交換(6/11)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> ◆省エネ加温技術研修参加農家20名 ◆省エネ機器導入事業説明会参加農家10名 ◆天敵利用技術先進調査参加農家5名 	<ul style="list-style-type: none"> ◆事業活用により木質ペレットボイラー導入を希望する農家が出てきた(5名)。 ◆先進調査や実証ほ結果から土着天敵活用の気運が高まった。 	<p>【指標】シットウ販売額 H23園芸年度 10.4億円</p> <p>【目標(H27)】10.8億円</p> <p>※販売額はJAへの入金額</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ギフト商材として、認知度を高めるため、まずはカット販売で消費者に知ってもらうという提案がされ、役員会で検討することとした。 ・MB剤全廃後の薬剤としてヨーカヒュームの検証を始めた。 ・品種の切り替え時期を徹底し、現地検討会では、篤農家の栽培管理を参考に他の農家も意見を出し合い、コンパクトな草姿を目指した管理を推進した。 		<p>【指標】エメラルドメロン販売額 H23園芸年度 4.4億円</p> <p>【目標(H27)】4.8億円</p> <p>※販売額はJAへの入金額</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・物部町ニラ栽培者(2戸、15a分)の苗の受け渡しが行えた(4/23)。 ・アザミウマ防除の実証する体制ができた。 ・鮮度保持対策の目慣らし会参加人数121名。 ・チェックリストによる点検農家数77戸。 ・異物混入、腐敗などの状況や対策等について意見交換できた。 		<p>【指標】ニラ販売額 H23園芸年度28.4億円</p> <p>【目標(H27)】30.0億円</p> <p>※販売額はJAへの入金額</p>

＜物部川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>4 地産地消・食育の推進 《南国市》</p> <p>これまで先進的な地産地消の活動を行ってきたが、学校給食への野菜の供給割合は10%台であり、これからも農業生産法人の作る重量野菜の季節的利用、南国産野菜の生産情報の提供など地産地消のさらなる推進のため、組織の連携強化等を図っていく。あわせて今まで以上に、病院や介護施設など業務筋への販売配送拡大に努める。また、生産者と消費者をつなぐ場づくりとしてオープンした「農家レストランまほろば畑」についても、安定的に経営することにより、地産地消を推進していく。</p> <p>【JA南国市出資農業生産法人、JA南国市、JA長岡、JA十市、南国市地産地消推進協議会、農家レストランまほろば畑、南国市】</p>	<p>○市内小学校への給食用食材の配送システムが整ったことにより、地元野菜の供給割合は11%を達成した。また、業務筋への配送先は8事業体となった。(H21～23)</p> <p>○地産地消フェア(H21)や地産地消推進協議会総会を通じて推進体制の強化を行った。(H21～23)</p> <p>○生産者と消費者をつなぐ場づくりとして道の駅風良里に毎火曜日農家レストランをオープンした。5グループによる輪番制で、来店者の平均は180人を超える。(H22～H23)</p> <p>◆配送業務を法人の一事業として成り立たせるための販路拡大</p> <p>◆まほろば畑のコンセプトの一つ「長く続ける」ための課題解決</p>	<p>◆高知県産業振興推進ふるさと雇用事業(2名・5,930千円)</p> <p>◆南国市JA出資型農業生産法人育成補助金(5,000千円)</p> <p>◆まほろば畑、業務改善会(チーム会)実施 2回</p> <p>◆チーム会で整理した課題を役員会で検討 2回</p>
<p>5 直販所「あけぼの市」の機能強化による農家の所得向上及び交流人口の拡大 《南国市》</p> <p>国道195号通称「あけぼの街道」の全線開通を好機ととらえ、直販所・加工所を本線沿いに移転拡充して地域農産物の販売や地域資源を活用した加工品の開発・販売を行い、地域農業者の所得向上を図るとともに、隣接する「ながおか温泉」への誘客を促進し、交流人口の拡大につなげる。</p> <p>【JA長岡】</p>		<p>・事業計画作成支援打ち合わせ会(5/14) 補助金申請、事業計画について県、市、JA長岡による打ち合わせを実施</p>
<p>6 地域農産物を活用した直販所「ひかり市」の施設拡充 《南国市》</p> <p>農産物の価格低迷と資材等の高騰により大幅に減少している農家所得の向上のため、直販所を移転改装するとともに機能拡充を図り、地元農産物を活用した商品の販売と顧客獲得に取り組む。</p> <p>【JA十市】</p>		<p>・事業計画作成支援打ち合わせ会(4/19, 5/14, 6/8, 6/14) 事業計画について県、市、JA十市による打ち合わせを実施</p>
<p>7 地域の特産品づくり～農産物加工への取組～ 《南国市》</p> <p>特産品づくりについては、これまでも取組を行い様々な特産品が開発されてきた。今後、一部の企業・団体でなく、特産品づくりに取り組む組織・グループを育成し、市全体に広めるとともに、プロダクトアウト型でなく、顧客ニーズも把握しながら、地域資源を活かした特産品づくりを促進する。また、できあがった特産品の売り込みを通じて地域をPRし、地域の魅力向上を図る。</p> <p>【なんこく空の駅推進協議会、西島園芸団地など既存企業、組織、グループ、新しい組織、グループ、JA南国市出資農業生産法人、南国市商工会、南国市観光協会】</p>	<p>○地域産品を使用した特産品づくり(H21～23)</p> <p>加工品の商品化についてはH23年3月末時点で累計33品目となり、当初目標の20品目は達成できた。</p> <p>○JA出資型の農業生産法人の設立準備(H21～23)</p> <p>農業生産法人実証組織(南国市雇用創出推進協議会 実現事業)はJA南国市が出資するJA南国市出資農業生産法人『南国スタイル』のH24年度設立へとつながった(H23.12月設立決定)。加工品の原料となる農作物の生産や一次加工品開発等この法人においても担うことが見込まれている。</p> <p>◆特産品づくりに取り組むプレイヤーの育成</p> <p>◆魅力ある商品づくり</p>	<p>・西島園芸団地の「もぎたて果実ジェラート」(メロン・イチゴ・マンゴー・フルーツトマト)試験販売</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	指標・目標
◆株式会社南国スタイル(JA南国市出資農業生産法人)設立(4/2) ◆農家レストランまほろば畑の開店日数 11日(4/3~6/26)	◆株式会社南国スタイル 業務筋への供給 新規供給 先4事業体 合計 12事業体 ◆農家レストラン4/3~6/26の来店者数 平均179人	【指標】学校給食における地元野菜の供給割合(H22:10.7%)金額ベース 【目標(H27)】15% 【指標】業務筋への供給(H22:6事業体) 【目標(H27)】15事業体
・事業計画の作成に向けて、関係者の意思統一が図られた。		【指標】直販所等の売上額(H22:33,000千円) 【目標(H27)】100,000千円 【指標】直販所等の雇用者数(H22:3人) 【目標(H27)】8人 【指標】ながおか温泉入場者数(H22:16万人) 【目標(H27)】19万人
・産業振興推進総合支援事業採択申請書の提出(6/25)		【指標】直販所の営業日数(H22:週2日) 【目標(H27)】週6日 【指標】直販所への出店者数(H22:11名) 【目標(H27)】100名 【指標】直販所売上額(H22:4,325千円) 【目標(H27)】50,000千円 【指標】直販所スタッフ雇用(新規) 【目標(H27)】3名
・新たに開発された商品 1品目(西島園芸団地の「もぎたて果実ジェラート」(メロン・イチゴ・マンゴー・フルーツマト)の販売が開始された)		【指標】地域産品を活用した新しい組織・グループ設立数(新規) 【目標(H27)】 10組織・団体 【指標】開発商品売上額(H22:656万円(28品目)) 【目標(H27)】 1,000万円(40品目)

＜物部川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果:○ 課題:◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>8 「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取組</p> <p>＜南国市＞</p> <p>大河ドラマ「龍馬伝」を契機に再燃する龍馬ブームを好機と捉え、豊富な園芸野菜を使った「ご当地グルメ」として、龍馬に関する逸話や先達の地等の歴史的背景を活用した「シャモ鍋」を新たに創出し、「地産「来」消」による交流人口拡大を図るとともに効果的なメディア露出などによる情報発信を強化する。</p> <p>また、シャモの飼育・ブランド化を通じて休耕田等を活用した飼料米栽培、さらには葉物野菜の出荷残渣の飼料化や鶏糞の土壌還元等の可能性を検討し、新たな農業手法を検討する。</p> <p>流通の少ないシャモ肉は少数生産であっても高級食材として取引されるため、飼育環境のトレーサビリティ等による高付加価値化を図り、「ブランド鶏肉」としての外商戦略を展開していく</p> <p>【ごめんシャモ研究会、南国市商工会、南国市】</p>	<p>○地域内にある資源(歴史+野菜)を融合させた「シャモ鍋」の創出及び県内外への情報発信(H21~22)</p> <p>○「シャモ鍋社中」によるシャモ料理提供。(H22~23)</p> <p>◆シャモ鍋・シャモ料理を創出し、南国市外へのPRを行うこと、南国市へ来てもらって金を落としてもらう体制【地産「来」消】(シャモの生産～料理として提供)づくりを整備することができた。</p> <p>○高級食材としての外商活動(H23)</p> <p>◆東京AS「ダイニングおきやく」でのシャモ鍋フェア、冬季限定でのグランドメニュー化など、試行的ではあるが高級食材としての外商活動を行った。</p> <p>○加工品の開発(H23)⇒シャモ鍋セットの試作品は完成。</p> <p>○シャモのブランド化(H22~23)</p> <p>◆シャモ肉の高品質かつ均一化を図るため飼育マニュアルのため実際の飼育データの収集・蓄積を行っているところである。H23現在は高知農業高校の協力も得てその作業を行っている最中であり、H24末には概ね骨子が定まる見込みである。(なお、H24以降も本年同様、高品質化のための研究を継続して行く予定である)</p> <p>また、安心して安全な肉生産のためトレーサビリティの確保にも取り組んでいる。</p> <p>○組織の法人化を行った。(企業組合 ごめんシャモ研究会)</p> <p>◆生産体制の強化</p> <p>◆シャモ肉の高品質かつ均一化</p> <p>◆安定供給量(ロット)の確保</p> <p>◆販路開拓</p> <p>◆組織の経営強化</p>	<p>◆シャモを突破口とする中心市街地賑わい創出事業(高知県産業振興推進ふるさと雇用事業)(1名・3,062千円)</p> <p>◆ごめんケンカシャモ飼育事業費補助金(市単補助額1,000千円)</p>
<p>9 大学生による地域応援団(サポーター)づくり</p> <p>＜物部川地域全域＞</p> <p>地域と大学等の学生の交流機会を増やし、相互の理解を深めることにより、物部川地域をサポートする『地域応援団(サポーター)』を作っていく。</p> <p>【人と地域の研究所】 【学生グループ】</p>	<p>○従来から開催されてきた地元住民との交流会が契機となり、高知工科大学において地域共生概論が履修科目として開設されたことにより、地域との関わりづくりが強力に推進されており、科目履修以外でも自発的に地域のイベントに参加する動きもある。また、地域と若者、特に学生をつなぐ役割を担うNPO法人「人と地域の研究所」が発足し、県から受託したふるさとインターンシップ事業において、再度参加を希望する学生や既参加学生の勧誘による参加者もあり、地域との関わりは参加学生にとっても意義あるものとなっていると考えられる。</p> <p>◆在学中の関わりづくり</p> <p>◆卒業後の「地域との関わり」</p>	<p>◆高知工科大学の学生グループ「NAO」と豊友会(香北町佐敷地区)をマッチング</p>
<p>10 加工品販売による夜須地域の活性化</p> <p>＜香南市＞</p> <p>地場産品を生かした加工品開発・販売を行い、生産農家の所得向上につなげる。</p> <p>【協同組合やすらぎ市】</p>		<p>◆加工希望者の募集方法及び加工品開発について打合せ開催(1回)</p> <p>◆加工希望者の聞き取り調査(1回)</p> <p>◆6次産業化推進研修への参加及び役員研修(1回)</p>
<p>11 生産から販売までのユズの総合的な産地強化対策</p> <p>＜香美市＞</p> <p>香美市物部町を中心としたユズは、国内最大の青果出荷(玉出し)産地であるが、生産者の高齢化などから生産の維持が困難になっている。このため、出荷作業時の労力軽減、農作業受委託の仕組みづくり、新たな担い手の掘り起こしを通じて作業者を確保し、産地の維持発展を図る。また、新たな需要を掘り起こし、選果場の機能を強化して販路を拡大する。</p> <p>【香美市・JA土佐香美】</p>	<p>○高齢化する生産農家の労働負担の軽減対策として、「ゆずもり」による作業受託を実施したほか、商品規格を見直し、従来の「平箱」や「冬至」から選り出した袋詰め商品の企画・販売を行った。また、後継者として2名の就農が見込まれている。</p> <p>◆生産農家の労働負担の軽減</p> <p>◆後継者の確保</p> <p>◆販路の拡大</p> <p>◆知名度の向上</p>	<p>◆ユズ産地協議会の開催(2回)</p>

アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・シャモ肉取り扱い飲食店の新規取引先開拓 社中2店舗 市外4店舗・1卸業者 総計 22店舗 ・シャモとジローの親子丼、シャモバーガーの開発 ・土佐の食1グランプリにシャモとジローの親子丼で出店し、3位に入賞(3/31.4/1) ・地産地消ごめんの軽トラ市(5/27)、長宗我部フェス(県歴史民俗資料館、若宮八幡宮・5/19.20)にシャモとジローの親子丼出店 ・龍馬/パスポートへのシャモ社中9店舗の参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・シャモ鍋以外の、季節を問わないメニューを開発して積極的なPRを行ったことにより、シャモ料理の知名度が向上し、シャモ肉取引先7件増と相まって、4月から6月末(見込み)までのシャモ肉販売実績が約550kgとなった(前年同期比207.5%)。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】ごめんケンカシャモ提供店舗数 (H23 15店舗) 【目標(H27)】18店舗 【指標】シャモ目標飼育羽数 (H23 2,000羽) 【目標(H27)】3,000羽 【指標】ごめんケンカシャモを使った加工品数(H23 0) 【目標(H27)】3品
<ul style="list-style-type: none"> ・豊友会の活動に高知工科大学の学生2名が参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部ではあるが、大学生と地域の交流が図られつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 交流した学生数 (H23年12月現在:16名) ・高知県立大学2名 ・高知工科大学9名 ・高知大学2名 ・県外大学3名) 【目標(H27)】 累計100名以上
<ul style="list-style-type: none"> ・打ち合わせ会議(3人) ・加工希望者(3人) ・研修(参加4人)により、客単価を上げるための店舗の改善点が明らかになった 	<ul style="list-style-type: none"> ・来店者数(前年比5月111%、6月102%) 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】加工品販売額 H22:7000万円 【目標(H27)】1億円
<ul style="list-style-type: none"> ユズ産地協議会(参加者20名) 小袋を利用した新たな販路の開拓についての検討や、販売戦略を立てるための樹齢や改植等に関する生産者アンケートを実施することとなった。 		<ul style="list-style-type: none"> 【指標】ユズ販売額 H23園芸年度 4.3億円 【目標(H27)】5億円

＜物部川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>12 香美市ブランドの確立・特産品づくり</p> <p>《香美市》</p> <p>香美市ブランドの確立、特産品づくりを行うことを通じて、働く場の確保と所得の向上を図る。</p> <p>【香美市観光協会、食品加工グループ】</p>	<p>○平成21年度から香美市地域雇用創造協議会等が中心となり新商品の開発や特産品の県内外への販売促進、ショッピングサイトの開設等を行った。これらの活動を通じて注目を集める商品も出始め、奥ものべ・じじばあんぜん会の「塩の道マーメイドしおゆず」が、平成23年度の土佐のいい物・おいしい物発見コンクールで優秀賞を受賞した。</p> <p>○べふ峡温泉や香美市地域雇用創造協議会が平成21年度から取り組んできたシカ肉の商品開発は、平成23年度までに9品目の商品ができた。平成23年5月に開催された土佐の食1グランプリでのシカドッグの優勝を機に、シカ肉の加工品が注目を集め、販路拡大につながった。</p> <p>◆シカ肉加工品の需要拡大に伴うシカ肉の安定供給体制の確立</p>	<p>・香美市観光協会運営事業費補助金 11,000千円</p> <p>・土佐の食1グランプリへの出店(4/1)</p> <p>・新規市場開拓の取組</p>
<p>13 民有林における素材の増産</p> <p>《物部川地域全域》</p> <p>森林所有者の所得の向上と、山村地域の振興を図るため、引き続き集約化施策を推進し、森の工場の拡大と素材の増産に取り組む。</p> <p>【各森林組合、林業事業体等】</p>	<p>○H22年度において目標面積を達成している。造林補助金や森林林業再生プラン事業を有効に活用し、作業道開設や高性能林業機械を利用した搬出間伐等に取り組んでおり、さらに、23年度においても地元説明会を開催し、事業の周知に努め、「森の工場」の拡大を推進している。</p> <p>◆森林経営計画と森の工場計画等各種計画との連絡調整</p> <p>◆作業道及び高性能林業機械等の効率的作業システムの構築</p> <p>◆事業予定地の山林の所有者、所有界の確定が困難</p>	<p>・高知県産業振興推進ふるさと雇用事業7名</p> <p>・5月12日香南市「舞川・撫川地区森の工場」(平成24年度計画予定地)の地元説明会を開催。(森林所有者25名参加)</p> <p>・5月25日香美市猪野々地区(平成21年度森の工場設定済)で、森林経営計画制度及び森林管理・環境保全直接支払制度について、地元説明会を開催。(地元代表者11名参加)</p>
<p>14 木質バイオマスの活用に向けての取組</p> <p>《物部川地域全域》</p> <p>需用者開発について、三市が連携して取り組んだ結果、一定の進展があった。今後は排出量取引などを活用した需用者の負担軽減の仕組みづくりを行う。また、木質バイオマス燃料の安定供給の仕組みづくりについて検討する。</p> <p>【南国市・香南市・香美市、JA南国市・JA十市・JA長岡・JA土佐香美】</p>	<p>○3市が連携して、木質バイオマスの利用についての検討を行い、木質燃料の需用者開発に取り組んだ(H21～23)結果、国の制度を活用し、18基の園芸用ボイラの導入を図ることができた。</p> <p>◆需用者の負担軽減</p> <p>◆木質バイオマス燃料の安定供給</p>	<p>◆JA長岡と今後の打合せを行った。</p> <p>◆ペレット利用量、チップ利用量、CO2削減量を検証した。</p>
<p>15 シイラ等の加工商材活用</p> <p>《香南市》</p> <p>シイラ等の加工による浜値向上と付加価値増加を通じて、漁業者の所得の向上を図る。</p> <p>【高知県漁協手結支所】</p>	<p>○地域の雇用確保(8名)</p> <p>○浜値の底上げ(支所が最低価格30円/kgで買い支え)の維持</p> <p>◆原魚の安定確保</p> <p>◆更なる衛生管理の向上</p> <p>◆新商品の開発</p> <p>◆新たな販路開拓</p>	<p>・既存取引先との定期的な情報交換(2回/週)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・土佐の食1グランプリ 4位入賞 ・通販サイト「四国産直市場」にて鹿肉ローストの取扱開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・土佐の食1グランプリ等を通じて、鹿肉加工品を広く一般に周知できた(シカドック800個売上)。 ・既存商品の新規市場を開拓することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指数】開発商品売上額 (H22:4,808千円(10品目)) 【目標(H27)】6,300千円(20品目)
<ul style="list-style-type: none"> ・説明会により、地元関係者から、協力体制の賛同を得た。 ・説明会により、森林経営計画制度の創設、造林補助制度及び森林整備地域活動支援交付金制度の改正について、地元の理解を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・舞川・撫川地区については、作業道開設、間伐の実施に向けて、境界確認調査(土地所有者の立会確認)に着手した。 ・猪野々地区については、今年度の事業実施に向けて実施計画策定に着手した。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 「森の工場」整備済面積 H22:9,400ha 【目標(H27)】 15,459ha 【指標】 素材生産量(民有林のみ) H22:26,053m³ 【目標(H27)】 47,500m³
<ul style="list-style-type: none"> ◆4JA及び事業者と情報共有を図った。 		<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 ペレット利用量 H23:1,230t 排出量取引 H23:— 【目標(H27)】 ペレット利用量 1,230t 排出量取引 1,500t-co₂
<ul style="list-style-type: none"> ・販売先の確保 		<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 シイラ加工事業の販売金額 H22:2,571千円 衛生管理の認証 【目標(H27)】 700万円 県版HACCPの取得

＜物部川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果:○ 課題:◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>16 「ごめん」の賑わいづくり～ごめんの活性化～</p> <p>《南国市》</p> <p>かつては南国市の中核的存在であった「ごめん商店街」に再び賑わいを取り戻せるよう取組を行っている。地元商店主の大半が高齢化し、後継者がいないために主体的な取組が生まれにくい状況だが、これまでの取組の中でできたやなせたかしロードや高知農業高校のアンテナショップ、ごめんの軽トラ市などを活かし、地元の意識醸成を図りつつ、賑わい拠点の創出や運営管理できる組織づくりにより、まず人が訪れる仕組みづくりを図っていく。</p> <p>【南国市商工会、南国市商工会後免支部、ごめんまちづくり委員会、地産地消ごめんの軽トラ市実行委員会、ごめんシャモ研究会、ごめん生姜アメ研究会、後免町公民館検討委員会(仮称)、高知農業高校】</p>	<p>○軽トラ市の定期的開催(3回/年)(H21～23)</p> <p>○ごめん応援団の設立(1団体)(H23)</p> <p>・軽トラ市は定着し、併せて行われるゴメンジャーショーは、ごめん応援団である「チームゴメンジャー」が結成されて、地域外の知恵と力も新たに加わったこともあり、集客効果を上げている。また、H23.7月からは高知農業高校アンテナショップ「ごめんマルシェ」が月2回(水曜日)開店するようになり、それらによるイベント時の賑わいは創出され、一定の成果はあがっている。</p> <p>・H23年度から商工会主体の「ごめんまちづくりプロジェクト委員会」が発足し、地域資源を活用した商品開発を行なっている。</p> <p>◆イベント時は賑わうようになったが日常的な賑わい創出には至っていない。</p> <p>日常的な賑わい創出のためには、外部に頼ったイベントだけでなく、ごめん町の商店主らそこに住んでいる人らが積極的かつ主体的に賑わい創出に取り組んでいこうという意識醸成が必要。</p>	<p>○集落支援員の配置(2名・3,264,000円)</p> <p>○ごめんありがとう賑わいまちづくり事業費<緊急雇用>(1名・6,225,000円)</p> <p>○全国商工会連合会の地域力活用新事業∞全国展開プロジェクト補助金の採択受ける。(総事業費10,460,000円うち市費3,424,000円)</p> <p>○四国経済産業局の「中小商業活力向上事業」の採択を受ける。(総事業費13,191,000円うち市費6,691,000円)</p> <p>○地産地消ごめんの軽トラ市開催事業費補助(600,000円)</p>
<p>17 香南市の地場産品販売促進</p> <p>《香南市》</p> <p>香南市の地場産品を事業者が一体となり販売活動を行い売り出すことで、香南市の知名度の向上や地域の農業者、商業者等の所得の向上を図る。</p> <p>【香南市観光協会、香南市内の事業者】</p>	<p>○JAと連携して原材料調達システムを構築し、生産量日本一のニラを使用した「にらプロジェクト」を展開するほか、香南市内の事業者の商品をカタログやネットで販売することにより、事業者の商品開発やメニュー開発意欲を喚起している。また、中元カタログ販売に際し開催した試食会や地元ケーブルTVでのPRなど、積極的に商品販売に取り組んでいる。</p> <p>◆事業者の商品開発意欲の継続</p> <p>◆商品販売体制の継続</p>	<p>◆高知県産業振興推進ふるさと雇用事業2名</p> <p>◆土佐香南まるごと旨市カタログ</p> <p>・土佐香南まるごと旨市運営委員会、生産者会議、ネット部会の開催(1回)</p> <p>◆土佐まるごとビジネスアカデミー「商人塾」応募(7/11～)</p> <p>◆商品開発・販売促進</p> <p>・「香南塩ダレ」の市販化</p>
<p>18 香南市の商業振興への取組</p> <p>《香南市》</p> <p>コミュニティガイド事業で作成・配布した「生活情報ガイド」や「コミュニティイベント」の継続により、地域の消費者に対し生活の利便性を提供するとともに、商業者のまとまりを再構築し、商業者が一体となって取組を行い、地域内での顧客の増加、さらには地域外への商圏拡大を目指す。</p> <p>【香南市商工会、香南市内の商業者】</p>	<p>○「お店紹介BOOK」が新規顧客に繋がりはじめ、商工会には店舗からの掲載希望が寄せられている。また、三宝山(H22)、天然色劇場(H23)で開催した「香南百貨店おひろめ市」では、商業者自ら店舗PRを行うなど、商業者の意識改革に繋がった。</p> <p>◆来店客の増加</p>	<p>◆生活便利帳の配布</p> <p>◆商業部会の開催(1回)</p>
<p>19 地場産業(土佐打刃物、フラフ)の振興</p> <p>《香美市》</p> <p>海外での展開も視野に入れた新商品の開発や販路の開拓のほか、昔ながらの技術や文化の継承を図るため、次世代を担う後継者の育成にも取り組む。</p> <p>【高知県土佐刃物連合同組合、香美市商工会、フラフ製造業者、香美市観光協会】</p>	<p>○香美市地域雇用創造協議会が中心となり、販売促進や商品開発に関する取り組みを行った。</p> <p>○市内に2箇所のアンテナショップが開設され、「ふらっと中町」での土佐打刃物の展示販売や「龍河荘ぐる里」での土佐打刃物鍛造体験を体験観光メニューとして販売していくこととなった。</p> <p>○土佐打刃物製造業の後継者育成は、土佐打刃物後継者育成対応策検討会を発足し、対応策の検討を行っている。</p> <p>◆地場産業の維持、後継者育成</p>	<p>・香美市観光協会運営事業費補助金 11,000千円</p>

アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	指標・目標
<p>○地産地消ごめんの軽トラ市 ・1回目(5/27)天気:晴 出展者21台 来場1,500名</p> <p>○後免公民館運営審議会内に後免町公民館建設推進部会を設立</p>	<p>軽トラ市の継続実施が、ごめん町の賑わいづくりに寄与している。</p>	<p>【指標】賑わい創出のための拠点施設整備(H23:0件) 【目標(H27)]1件</p> <p>【指標】空き店舗活用(H23:0件) 【目標(H27)]2件</p> <p>【指標】地元・地域を巻き込んだ実際に活動できる組織の設立(H23:0組織) 【目標(H27)]1組織</p> <p>【指標】ごめん商店街の歩行者通行量(H23:ばいきんまん前 12人/h)、(ジャムおじさん前 23人/h) 【目標(H27)] ばいきんまん前20人/h ジャムおじさん前40人/h</p>
<p>◆土佐香南まるごと旨市カタログ ・運営方針が確認され、また、新たにネット部会が開催された。 ◆商品開発・販売促進 ・「香南塩ダレ」の販売開始(5/2~)</p>	<p>◆開発商品の販売 ・「香南塩ダレ」の販売店舗:県内11店舗 ・販売個数:824個・販売額:346千円</p>	<p>【指標】 参加事業者数 H23:29事業者</p> <p>【目標(H27)] 35事業者</p>
<p>◆市内生活情報や店舗情報の提供ができた。 ◆新たな取組体制が確定された。</p>	<p>◆生活便利帳の改訂により、情報が充実し好評を得ている。</p>	<p>【指標】商業者数 H23 873店</p> <p>【目標] 現状維持</p>
<p>・観光協会通販サイトでの土佐打刃物製品の商品構成の充実を図るべく、土佐打刃物業者に声掛けを開始した。</p>		<p>【指数】刃物製造業者数 (H23年12月末現在36事業者)</p> <p>【目標(H27)]現状維持</p>

＜物部川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>20 観光事業から観光産業へ～観光産業の振興～</p> <p>《南国市》</p> <p>交通の要衝という恵まれた立地環境を活かし、地域内の観光資源をつなぎ、地域が誇る史跡資源(長宗我部)や農業などの地域資源を活かして観光を産業として、成り立たせる仕組みを構築していく。</p> <p>【南国市観光協会、市内各観光に関わる企業・団体・グループ】</p>	<p>○観光コーディネート組織の設立(H21～23)</p> <p>◆観光コーディネート組織(観光協会)は、H24年度から、事務局も含めて行政から独立する予定。</p> <p>○観光ガイド組織の設立(H21～23)</p> <p>○観光ガイド組織「南国市観光案内人の会」はH23に設立された。今後は組織の強化と観光ガイドのスキルアップを図る。</p> <p>◆観光協会が実際に観光の取り組みを推進できる仕組みづくりが必要。</p> <p>◆観光協会の組織強化。</p> <p>◆史跡を文化資源としてだけでなく観光資源として磨き上げること。</p> <p>◆「南国市観光案内人の会」のガイドとしてのスキルアップ。</p>	<p>◆高知県産業振興推進ふるさと雇用事業(3名・13,882千円)</p> <p>◆長宗我部フェス(長宗我部元親ラリー3含む)補助金(市単1,000千円)</p> <p>◆岡豊山さくらまつり(土佐の食1グランプリ)補助金(市単1,800千円)</p> <p>◆観光協会補助金(市単独2,100千円)</p>
<p>21 体験観光等の旅行商品化と販売の推進・地域の観光情報の発信</p> <p>《香南市》</p> <p>香南市の海と山と歴史などの地域資源を活用した体験観光等を推進し、交流人口の増大を図る。</p> <p>【香南市観光協会、地域の体験メニュー等提供団体】</p>	<p>○観光ガイド等養成講座の受講生が「香南市案内人会」を発足させ、香南市観光協会が主催するツアーでガイド活動を開始した。また、香南市観光協会が一般社団法人化し、旅行業第3種の登録も行った。これにより、旅行商品の企画から販売、受け入れ(ガイド)までの体制が整った。今後は、インストラクターの養成も行いつつ、体験メニュー等の開発やそれらを商品として企画し、PRしていくことで入込客の増加が見込まれる。</p> <p>◆旅行商品の企画・販売の継続、体験メニュー等商品素材の開発、インストラクターの養成、エージェンต์に対するプロモーション、広域で連携した滞在型観光メニューの開発</p>	<p>◆高知県産業振興推進ふるさと雇用事業(地域まるごと旅行商品の開発販売及びランドオペレーター機能構築事業)―1名雇用(前年度より継続)</p> <p>◆高知県緊急雇用創出臨時特別基金事業(香南市民泊推進事業)―1名雇用(新規)</p>
<p>22 「森の駅」を中心とした体験型観光の推進</p> <p>《香美市》</p> <p>べふ峡温泉を「森の駅」と位置づけ、体験型観光の拠点施設として森林を活用した観光を推進する。また、体験プログラムの実施による地域住民との交流や地域の活性化につながる香美市の新たな産業としての観光の育成を図る。</p> <p>【香美市、香美市観光協会、地域内の観光施設及び体験型観光メニュー等の提供団体】</p>	<p>○香美市地域雇用創造協議会において、H21～23年度に毎年度、対象を変えてモニターツアーを実施し、香美市の観光素材、体験観光メニューのモニター評価等を受け、改善すべき点の把握等を行った。また、モニターツアーの開催を通じて一般旅行商品の造成へとつながった。</p> <p>◆新たな体験プログラムの造成や既存メニューの磨きあげ</p>	<p>◇香美市観光協会運営事業費補助金 11,000千円</p> <p>◇高知中央広域ふるさと市町村圏広域活動事業補助金 1,500千円</p> <p>(「森の駅」フェスティバル開催事業)</p> <p>○香美市観光協会募集ツアー実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春の塩の道(4/29) ・猪野々風の丘(5/27) ・ほっと平山教室(6/1) <p>○べふ峡温泉利用体験型観光企画(登山、アウトドア料理、バーベキュー、ライダー・登山応援)</p>
<p>23 広域観光の取組の推進</p> <p>《物部川地域全域》</p> <p>物部川地域の自然、観光施設、体験メニュー等の多様な観光資源を広域的に組み合わせ、魅力的な観光商品とするとともに、一体として情報発信を行うことにより、観光客の広域的な誘致を推進し、交流人口の拡大を図る。</p> <p>【物部川地域観光振興協議会(南国市、香南市、香美市、南国市観光協会、香南市観光協会、香美市観光協会)】</p>		<p>◆物部川地域観光振興協議会の開催(2回)</p> <p>◆とさ旅セミナー準備会への参加(1回)</p> <p>◆エリアキャンペーン実行委員会への参加(2回)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・岡豊山さくらまつり(土佐の食1グランプリ) 3/31~4/1開催 入込客:約10,000名 ・長宗我部フェス(岡豊会場) 5/19 入込客:約2,500人 	土佐の食1グランプリは継続開催によりイベントとして定着し、ご当地グルメの販売向上に寄与した。	【指標】観光協会の会員数(H23:77) 【目標(H27)】150 【指標】一般社団法人数(観光協会の法人化) 【目標(H27)】1組織 【指標】主要4観光施設※の入り込み数(H21:483,000人) 【目標(H27)】500,000人 <small>※県立歴史民俗資料館、西島園芸団地、パンフィックゴルフ(以上、来場者)、道の駅南国風良里(ショップ、直販所のレジ通過人数)</small>
<ul style="list-style-type: none"> ◆土佐塩の道30kmウォークの旅行企画・募集・実施 ◆塩の道でのトレイルランの企画・試走 	◆土佐塩の道30kmウォーク:60名の参加	【指標】年間プロモーション活動 【目標(H27)】年6回以上(年のべ50社以上) 【指標】主催旅行の開催 【目標】10コース・募集200人以上
○香美市観光協会募集ツアー実施 (計88名参加) <ul style="list-style-type: none"> ・春の塩の道(4/29) ・猪野々風の丘(5/27) ・ほっと平山教室(6/1) ○べふ峡温泉利用体験型観光企画(登山、アウトドアクッキング等)→登山企画の受入試行(5/7)・岡山より3名参加	べふ峡温泉利用の体験型観光企画が商品化された。	【指標】体験プログラム数(H23:12プログラム) 【目標(H27)】20プログラム 【指標】体験プログラム受け入れ人数(H23:-人) 【目標(H27)】500人
<ul style="list-style-type: none"> ・予算執行を伴う事業推進体制が整った ・とさ旅セミナーの開催が決定した 		【指標】 観光客入り込み数 H21:72.1万人 H22:78.1万人 【目標(H27)】 80万人 (内訳) 主要観光施設訪問者数 H21:67.5万人 H22:73万人 体験メニュー受け入れ数 H21:4.6万人 H22:5.1万人